

# まちづくり推進協議会会報

## 太白区まちづくり推進協議会とは？

地域が抱える課題の解決や魅力あるまちづくりを推進するため、区民と区との協働により、さまざまな事業を企画・実施しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が制限される事業もありますが、引き続き、太白区内の魅力あふれるまちづくりを推進してまいりますので、皆さまの積極的なご参加・ご協力をお待ちしています。

## 特集 まちづくり活動を通して

### ～「たいはく若者まちづくりフォーラム」より～

「たいはく若者まちづくりフォーラム」は、太白区まちづくり推進協議会と太白区の共催事業です。東北工業大学と協働で、生出地区のまちづくり活動に地域の方々と一緒に取り組んできました。今回は活動に関わっている学生の方から活動内容を紹介していただきました。

まちづくり活動への参加を通してよかったと思うのは、地域の方とのコミュニケーションが取れること、そして、地域の魅力を発見できることです。そのなかで、まちづくり活動は継続することが重要ではないかと考えるようになりました。

私が大学で関わらせていただいたまちづくりワークショップがいくつかあり、そのひとつが仙台市太白区の赤石地区です。この地区は、北赤石・南赤石・松場の三町内からなり、名取川沿いの両岸に位置しています。

北赤石には、東から亀ヶ森・中ノ森・鹿ノ上森の三つの山が並んでおり、奥州三箇森と称され、中世には山岳信仰の対象となっていました。その麓には古くから地域を守る家々が点在しています。

南赤石は、東街道と笹谷街道が交わる要衝の地で宿場としての賑わいを見せた時期もあります。宿場時代の建物はほぼ残ってはいませんが、町割りなど面影を残しています。

私たちは、この赤石地区で、まちづくりとして地域マップを作成しました。地域の宝である地域資源を抽出し、

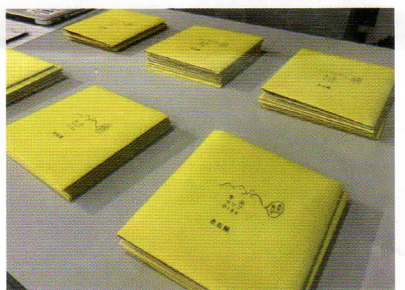


(赤石地区の方とのワークショップ)

手に取っていただけるような魅力的なマップを地域の方と共に作っています。ワークショップを通して、地域の方とコミュニケーションをとることは、まちづくりにとって欠

かせないものであると感じました。

そして、学生と地域の方では、見るポイントに違いがあり、そこから地域資源の魅力を発掘していく過程が大切だと考えています。



(作成した地域マップ)

この様にまちづくりに携われることは、とても貴重な機会であり、地域の方と関わることができる大切な活動の場だと考えています。というのも、学生である私たちは、どこかに活動する場を求めているからです。ワークショップの中では、地域の子供と接する機会があるので、この様な活動を体験的に伝えていくこと、また、私たち自身も地域に関わり続けていくことが重要であると捉えています。



(地域の人とマップ作り)

こうした活動を通して、地域に通い続けることが、まちづくり活動の継続に繋がっていくと考えています。

(東北工業大学大学院 不破研究室 千葉百華)

# わたしたちのまちづくり～まちづくり活動紹介～

## 「食」を通じた地域の居場所

「おりぎの食卓」は、孤食やひとり親、共働き家庭のお子さまとその保護者、また地域との繋がりが希薄な高齢者の方々と、一緒に食卓を囲み夕食を食べています。

運営は「NPO 法人おりぎの家」が行っており、2016年9月にスタートしました。毎週木曜日と金曜日の週2回開催しており、お子さまは無料、大人の方は300円で利用できます。定員があるため原則事前に登録をお願いしています。

日頃の生活の中でちょっと助けが欲しい時ってありますよね。そんなとき「地域の食卓」としてぜひお役に立てる場所でありたいと願っています。



夏の「流しそうめん」や冬の「餅つき」「豆まき」などのイベントを通して、地域の方と交流を行った

り、子どもたちの学習支援や見守りには、東北福祉大学の協力により毎回学生ボランティアが参加して、自然な形で多世代交流を行っています。

今後は、おりぎの家まで来て頂くことが困難な方へのお弁当のお届けや、開催日数を増やすなどの計画も立てております。

「食べることは生きること」…おりぎの家では「食」をとっても大切に考えています。ホームページもありますので、ご興味を持たれた方はぜひお気軽にご連絡ください（「おりぎの家」で検索）。



（理事長 佐藤宏美）

## 飛躍する町内会をめざして

中田中部町内会連合会は、「飛躍する町内会をめざして」をメインテーマに、また地域力を高めるために、「地域住民の絆を〈深める〉、地域住民の協力を〈広める〉、地域住民の満足度を〈高める〉」をサブタイトルに掲げています。

去年は「こどもフェス」、「動物ふれあい広場」、「むかしあそび」、「中田中部公園イルミネーション」の4つのイベントを開催し、地域の子供たちや高齢者の方々、新旧住民がイベントに参加し、親睦と交流を図って

きました。子供たちの見守りも活発で、袋原小学校の学校ボランティア防犯巡視員の登録者数も多く、小・中学生の登下校時に「挨拶



を交わしながらの見守り活動に加え、夕方にはスーパーマーケットや中田中央公園等の巡回活動も行っています。

高齢者を見守り活動は、福祉員が一軒一軒に「声掛け」の活動をするとともに、民生委員及び学校ボランティア防犯巡視員による二重三重の見守り体制をしています。

また、全町内会で立ち上げた「茶話会」は、毎月1回、脳トレ・軽体操・合唱・おしゃべり等を行いながら、町内会の情報交

換場所になっています。中田中部地区社会福祉協議会主催による「ふれあいサロン」、「はつらつ運動クラブ」等の介護予防運動にも多くの方々に参加しています。



（会長 山口義晴）

## 茂庭台 地域生きいきプロジェクト



「地域生きいきプロジェクト」は、特別養護老人ホーム茂庭苑の地域貢献活動の一環として始まった活動から発展したプロジェクトです。現在は住民主体の「生きいきサークルたんぽぽ」を立ち

上げて活動をしています。少子高齢化が進んでいる、生出・茂庭台地区において、住民同士の結びつきを強くして、住民が地域課題を自分のこととしてとらえ、様々な世代と一緒にまちづくりに参画できるような地域づくりを目指し、定例講座やサロン活動、支え合いをテーマとしたイベント「オレンジフェスタ」の開催等を

行っています。昨年の「オレンジフェスタ」では、東北福祉大学総合福祉学部の学生に企画から運営まで携わっていただき、笑顔があふれる世代を越えた交流の場となりました。

また昨年は児童館の子供たちと一緒に映画鑑賞会を行った。サロン活動の中で意気投合し「親睦外出」を企画するなど、「みんな楽しく、生きいきと」をモットーに活動しています。現在会員は40名。活動の詳細は茂庭苑のホームページをご確認ください（「茂庭苑」で検索）。

（事務局 菅田和美）

